

第2期八王子市がん対策推進計画策定専門懇談会 第1回会議 議事要旨

日 時：令和5年（2023年）7月7日（金）19：30～20：50

場 所：八王子市保健所 401 会議室

現計画の振り返り（施策展開）、評価及び市民意識調査の結果報告、現在の課題及び第2期計画の取組みに向けて

①「基本方針Ⅰ がん検診の推進」

論点 大腸がん検診の精密検査受診率が国の目標値 90%を達成していないことについて	
事務局	大腸がん検診の精密検査受診率は年々向上しているものの、まだ、国の目標値 90%に達していない。未だに精密検査として再度の便潜血検査を実施する方、検診前に内視鏡検査を実施したことや高齢等の心身状態を理由に精密検査を拒否される方がいる。（このような方々だけでも 100 名以上。）
窪田信行氏	この方々をクリアすれば、精密検査受診率が 90%を達成するのか。
事務局	この方々をクリアしても、90%は達成できない。本人の意思として、精密検査（内視鏡検査）を受診しない、受診したくないという方が多い。そこで令和 5 年度からは、前年度精密検査未受診者や年齢・心身状況等を考慮し、一次検診後の精密検査の受診が難しいと判断される方については、検診の対象外であることを明確化した。
斎藤博氏	全国的に見ても、大腸がん検診の精密検査受診率は、5 がんの中で最も低迷している。十数年前までは 50%台半ば程度であったが、精度管理の取り組みや集計期限の延長の効果もあり、現在は 70%まで上がっている。しかし、他のがんに比べると 10%以上低いのが現状である。 大腸がんの精密検査受診率が 90%に達していない要因として、1 つ目に、便潜血検査が大腸がん検診であるという認識が低いことが挙げられる。すなわち、自分ががん検診を受診していると思っていないということである。2 つ目に、精検による患者の負担が大きいことが挙げられる。検査に一日かかってしまうため、仕事を休まなければいけないことや前処置（下剤服用等）もあり、他の検診に比べるとハードルが高い。加えて、精密検査として、何をどこで受診したら良いかが、他の検診よりわかりづらいことも負担になっている。 施設によっては、精密検査の受診率が 90%を超えているところがあるが、そういった施設では、検診結果が出た際に精密検査の予約をしている。受診者が意思決定に逡巡するプロセスを経ずに精密検査に繋がると、受診率が上がるという指摘がある。 中核市ほどの人口規模で、大腸がんの精密検査受診率 90%をクリアしている自治体は、ほとんどいないのではないかと。八王子市は中核市の中でも、トップクラスの成績であると考えてよい。

西島重信氏	医療機関では、要精密検査となった場合に精密検査を受ける意思があることを確認してから、一次検診（便潜血）を受けさせるようにしている。また、問診項目の中で、前年度大腸がん検診で要精密検査になり、かつ精密検査未受診者の方は、今年度の一次検査を受けられない仕組みになっている。
事務局	市民が、がん検診の趣旨、目的、その後の流れ（精密検査）をしっかりと理解した上で、一次検診を受診することが重要。リーフレットによる周知や、医療機関からの説明を通して、精密検査未受診者を減らしていく。

論点 がん検診のプロセス指標における基準値の修正について	
菅野匡彦	国の「がん検診のあり方の検討会」で、がん検診のプロセス指標における基準値の修正があったが、非常に細分化された目標設定になっている。
斎藤博氏	<p>修正前の基準値は、国のがん対策推進基本計画が始まった頃に設定したものである。まずは、ボトムアップを図ることを目的に、各自治体の数値の中で、上位 70%（下位 30%）を許容値として設定し、どの自治体も最低限この数値をクリアできるようにしましょうというもの。</p> <p>一方で、今回の基準値は、検診として重要な指標である、感度・特異度に着目し、目指すべき感度と特異度の数値から、それぞれの指標について、基準値を逆算している。言い換えれば、今回の基準値をクリアすることで、よりダイレクトに感度・特異度が高い検診を行えているかどうかを見ることができる。</p> <p>また、今回の基準値が年齢等の因子により、細かく分かれているのは、指標の種類によっては、がんのリスクに関わるバックグラウンドの影響を大きく受けるからである。例えば、がん発見率において一番影響を与える要因は年齢で、10 歳違うだけでも大きく変わってくる。次に関係するのが、初回受診者か否かである。繰り返しがん検診を受診している場合、がんの発見率は低くなる。そういったバックグラウンドやリスクの違いを勘案した結果である。</p> <p>基準値の設定には、より意味が明確な方法で設定し直したということで、丸 2 年ほどかかっている。詳細な分析を行った結果であり、進歩したことは間違いない。</p>
事務局	八王子市としては当然、この基準値に沿った形で事業評価を行っていくことになるが、市民等に発信する際にはわかりやすさも重要。精度管理状況の見せ方については、第 2 回懇談会まで引き続きの検討とする。

論点 女性医師がいる医療機関を周知することについて	
鈴木育宏氏	市民意識調査の結果から、乳がん検診や婦人科の検診はやはり女性医師がいることがわかるとよいという意見が見られる。
西島重信氏	確かに女性特有のがん検診について、女性医師がいるところで受診したい方が多いのは間違いないと思う。ただ、女性医師じゃないから検診受診しない方はどれだけいるのか。検診ガイド等、公の文章にどこまで載せるかは非常に難しい。
坂本永子氏	女性の立場からいえば、「女性医師がいる」という記載があると、受診先を決める際に誘導される要件の1つになる可能性がある。つまり、これまで男性医師の医療機関で受診されていた方や医師の性別を気にされていなかった方も、その文言があることで、女性医師がいる医療機関に集中することが懸念される。
菅野匡彦	今後の検討事項の1つではあるので、参考にしたい。

②「基本方針Ⅱ がん予防の推進」「基本方針Ⅲ がんに関する啓発・教育の推進」

論点 「がんに関する正しい知識の普及」や「がんに関する教育の推進」について	
鷹箸右子	がんになってから当該地域で生きていく方に対して、いかに支援していくかが自治体として非常に重要である。受動喫煙に関しても市役所を中心に対応があまり進んでいないことを実感しているので、しっかりと取り組んでいきたい。
西島重信氏	普及啓発や教育を通じて、子宮頸がんを予防することは重要だと考える。令和 4 年度から子宮頸がん予防ワクチン接種についての受診勧奨が再開された。キャッチアップの対象となる世代も含め、広く周知が必要。そういう意味では、市が企画した「看護学生への講義（普及啓発）」は、非常に意味がある。看護学部の学生は将来看護師という専門職になり、多くの市民・患者に影響を及ぼす。加えて同世代で他学部在籍する友人に対して、正しい知識を伝えることができる。子どもに対する学校でのがん教育も、今後どんどん進めていく必要がある。
青木琢也氏	興味をもってがん検診を受診してもらうために、例えば駅など人通りが多いところで、啓発することも一つではないか。
坂本永子氏	コロナ以前は、八王子駅前でも普及啓発活動を行ったことがある。ペン等のグッズを用意すると非常に多くの方に受け取ってもらえるが、一方で、知識の普及や検診受診に結びついているかはわからない。性別や年齢によって、効果的なメッセージは異なる。八王子市では 5 月に検診ガイドが配布され、その後、人によっては、勧奨通知が届くが、中には割引券チケットといった目を引くようなものもある。そういった視点は興味深いと感じる。

③新たな視点「がんに関する相談支援・情報提供」

論点 がん患者への支援について	
鈴木育宏氏	令和5年3月4日に「がんになった時に知っておきたい知識」というテーマで講演を行った。個別相談会やアピアランスケアも行い、非常に好評だったと感じている。がんになっても生きやすい世界なのだ、ということを周知できたのはよかったと思われる。
鷹箸右子	こういった講演は、継続的に実施していくことが必要である。
鷹箸右子	がん患者への支援について、他自治体で、先駆的・優れた事例があるので、積極的に取り入れていきたい。特に八王子市内には、2つのがん相談支援センターと大学病院を持っているため、それらの施設にも最大限の協力をいただき、まずはカウンセリング、それからアピアランスケア等についても、積極的に行っていくべきだと思う。また、専門家には聞きづらい話を平場で聞ける場を提供することも必要である。難しいことではなくやり方を知っている自治体がたくさんあるので、うまくそれを取り入れていけば、市としての方向性が見えてくると思う。
事務局	東京医科大学八王子医療センターや東海大学医学部附属八王子病院にご協力いただき、がん患者の生の声を聞く機会ができなかと模索している。7月下旬から実施できるよう進めているので、それも含め今回の計画に反映できれば良いと考えている。
西島重信氏	「がんとの共生」の支援では、メンタルケアも大切であると思われる。精神科の医師を含め、そういった支援のできる協力体制をつくっていくことが好ましいのではないかと。

④その他

論点 第2期八王子市がん対策推進計画、がん検診における体系について	
齋藤博氏	<p>科学的根拠が前提としてあり、それをきちんと管理して検診を行うという順番が本来の形。</p> <p>多くの自治体では、科学的根拠を無視しているという状況、精度管理が不十分だという状況（ただし、これは今、少し良くなっている）の中で、最優先事項が、受診率を上げることになってしまっている。</p> <p>八王子市では、現行のがん対策推進計画を策定した際、きちんと科学的根拠から書き起こしている。</p> <p>第2期計画についても、科学的根拠、精度管理、そして受診率という形で、まとめ上げることが非常に重要だと感じる。これを継続し、さらに各項目、中身を伸ばしていけば、八王子市が独自に他の都市に先駆けて、成果を出す方向に進んでいけるのではないか。</p>